

Title	哲学カフェに参加して感じたこと
Author(s)	大洞, 真佐子
Citation	臨床哲学のメチエ. 2003, 12, p. 6-6
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/5604">https://hdl.handle.net/11094/5604</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 哲学カフェに参加して感じたこと

大洞真佐子

哲学カフェに参加して、幅広い意見の中で私なりの新しい発見もあり、改めて「ケア」について考える機会が持ててよかったと思う。その中で、「ケア」はリパブリック（契約的社会）とデーモス（属性的社会）では、対等であっても質が違うのではないかと、参加者の意見を聞きながら思った。たとえば、リパブリックでは常に相手の立場に立った「ケア」を心がけなければならないが、デーモスの場合は、自分の立場も主張することによって、お互いに理解し合える面がある。そのことにより、時には「傷つけあうケア」も成立するのではないだろうか。

私自身、老人福祉施設に職員として在籍して、「より良いケア」を目指して満足を得られるように頑張ってきたという、多少の自負心があった。

しかし、今回の哲学カフェに参加して、今まで行ってきた「ケア」をインサイドワーク（自らを美化）にしないでアウトサイドワーク（自ら明確にして検証）して今後に生かしていくことの必要性を感じた。

哲学カフェには、「自分を見つめ直す」「色々な考えを知る」こと等よい機会であった。又、自分の考えを話すことで他の参加者が聴いてくれることによって「ケア」されたような気分も、哲学カフェのよさかもしれない。

身体的ケアや精神的ケアでも、受け手がホジティブに考えられるような「ケア」こそ大切だと思う。

人間は誰も回りに「ケア」され合って支えられていることを強く感じる。

これからも、相手の意図と違う「間違ったケア」も時にはあるかもしれないが、その人にとって本当に必要な「ケア」は何かを常に考えて接していきたい。

今回、大阪よりご参加いただき本当に有難うございました。

（だいどうまさこ 明治学院大学 社会福祉学科3年）